

「所得税」への思い

大田区立貝塚中学校 三年 平石 優果



私は昔、モノポリーというゲームをやっていた。モノポリーはサイコロを振ってマップを周回しながら、土地や家、ホテル、鉄道、ライフラインなどを売買・建設して資産を増やし、最終的にライバルを破産させるのが目的のゲームである。戦略を考える知力、相手を納得させる交渉術、そしてサイコロの出目の運、どれかが欠けては勝てないゲームだった。とてもおもしろいのだが、一つだけ不満な点があった。それはマップに「所得税マス」というマスがあり、止まると二〇〇ドルも引かれるのだ。(五十ドルで家を建てられるので、二〇〇ドルが大きな額ということとは分かると思います。)ゲームの中とはいえ、お金を取られるのはもちろん嫌だし、何よりも私は「消費税」しか納めたことがないので、「所得税」という意味がわからない税でお金を取られるのが一番嫌だった。だから、今回、調べてみることにした。

「所得税」は、働いて稼いだら、かかる税で、給与や年金、不動産や株式の売買など、あらゆる収入に課税される。年に一度確定申告をし、税率は一定の収入範囲ごとに決まっています。二〇二一年の一例では三三〇万円超から六九五万円以下の場合は一〇%、一八〇〇万円超の場合は

四〇%ぐらいで、高い収入ほど高い税率で課税されることになっていた。また、所得税は、国や自治体が社会保障や公共事業、教育などの公共サービスを提供するのに必要とする資金を調達するために用いられている。国の税収の中でも大きな部分を占めていることもわかった。

調べてみて、私はこんなに重要な税をゲーム上ではあるが納めていたことを知り、少しだけうれしくなった。けれども、たくさんの人が思っているように、税金を納めることはお金を失うことでもある。そして、税金のありがたみを実感することも少ない。しかし、そのお金が国や社会の発展につながり、国の未来をつくるのであれば、それは多くの人が幸せに生きるための投資とも言える。だから私は自分の未来をつくるために、今、私が納められる「消費税」はしっかりと納め、大人になり働き始めたら「所得税」もしっかり納めたいと思う。そして、またモノポリーをやる機会があれば、「所得税マス」に止まったときは、早く所得税を納めたいと思う。それが、モノポリーで自分が勝つ未来をつくと信じて。所得税について知れたから、今後はもっと楽しくモノポリーをプレイできそうです。